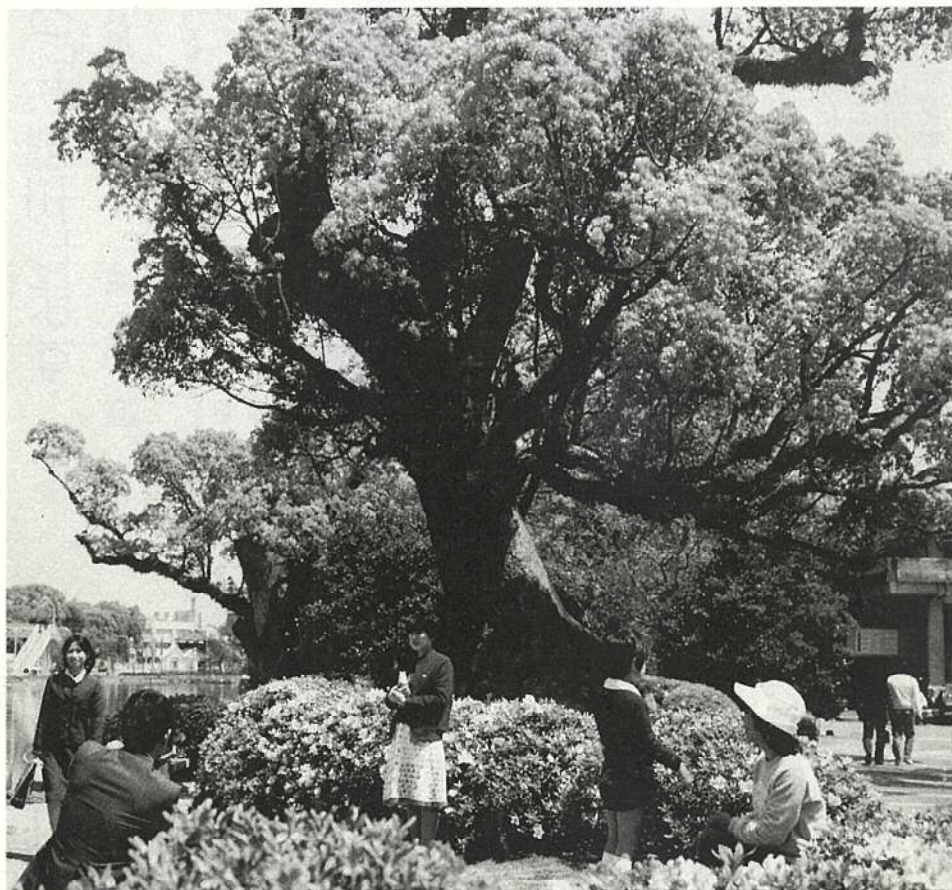




(写真説明=若葉もえる佐賀県庁前のクスノキ)

1

会報 むつごろ

昭和57年6月12日 発行
福岡市佐賀県人会

(責任者・溝上 嘉幸)

福岡市中央区天神4丁目1-6

昭和セントラルビル内(〒810)

☎ 092-761-8253

制作 (有)タナカ製本印刷所

一人でも多くの仲間を増そう

ことしの県人会の活動方針

地域活動も充実しよう
理事会 熱心に討議つづく

福岡市佐賀県人会が生まれて満三十年。長老先輩たちに、「あん時はよかった。みんなで集まり、運動会や盆踊りをやったりして、楽しんでいたバイ」と懐旧談を聞くにつれて、この間、社会環境の変化や世代交代に伴う郷土意識の風化現象など数多くの阻害要因はあるにしても、諸先輩が手塩にかけて育ててくれた県人会を継承し、より発展させることは、私ども後輩に課せられた責務であろうと存じています。

幸い、わが県人会は、名誉会長に永倉三郎九州電力社長、会長には金子宜嗣昭和自動車社長、副会長にも中村常一、中西林一郎、吉田正勝、高田省三各氏と、人柄も優れた九州財界のお歴々がそろっておられますがトップに比べて、「手足」が見劣りし活動力を欠いて、これまで会員各位のご期待に添ええなかったことを深く反省いたしております。

そこで世話役の執行体制を整えて、金子会長の抱負である「会員相互の親睦とふれあいを大切にする助け合い」の実践にむけて一層の努力をする考えです。



【写真説明】会員名簿を整理する
県人会役員たち

役員構成では、とくに、老・壮・青の三代一体の構成により、①組織の拡充（田中・榎原理事）——地区・職域支部の強化と高校同窓会に働きかけ会員増加を図ります②機関誌「むつごろ」発行（大井手・内山理事）——四半期に一回発行し、郷土だよりや会員動静を伝えて連帯意識を高めます③活発な各種行事の企画実施（原・寺井・藤井・上川理事）——定期総会や新春懇談会はじめ地区活動も充実します。

この三項目を重点テーマに取り組み、東京・大阪・名古屋などの先進地区県人会にまけないように充実したい。

また、永い間、会運営にタッチし経験が豊富な山口・副島・坂田・高塚・無津呂・中山各理事には、広い現野にたつた指導助言を期待しています。

庶務・経理部門は辻・波多理事が担当し、連絡調整を受け持ちます。

——これらの活動にあたって会員各位のお力添えをお願いいたします。

とくに、福岡都市圏には佐賀県出身の方約十五万人が住んでいるといわれ、「一人でも多くの会員仲間を増やすために、ぜひ、友人や知人に声をかけてください。（代表理事 溝上嘉幸 白石町出身）



九州電力株式会社

取締役社長 永倉三郎

本店 福岡市中央区渡辺通り2丁目1番82号

TEL (代) (761) 3031

親善と交流の「世話役」に 会報「むつごろ」も創刊します

佐賀県人会会長 金子宜嗣



【写真説明】(上) 永倉三郎
名誉会長 (下) 金子宜嗣
会長

県人会長にご推薦いただきましたが、なに分、未熟者でございまして、馴れない仕事でもありますが、永倉名誉会長はじめ

諸先輩や会員皆様のご指導をうけて、微力ながら世話役として県人会の発展に尽力いたしたいと思っております。

ゆかり深い「電気と佐賀」

佐賀県人会名誉会長 永倉三郎

旧制佐賀高校までを佐賀で過ごし、大学は東京、そして卒業とともに東邦電力に入社して九州勤務、九州配電、九州電力と名前と組織は変わったが、現在まで延々と五十年近く、よくも辛抱して勤めてきたものをつく

づく思う今日この頃である。もともと、その中で七年半ばかりは中国、満州、ビルマ戦線に召集され死線の間をさまよいつつ、運よく生還して昔の仕事に戻ったことも含まれている。

全域が私の御得意様であるわけだが、佐賀の生まれであることには変わりがなく、ともすれば佐賀人の本領発揮、梅干の酸味にも似て佐賀言葉「ちよいちよい」の生活である。

電気と佐賀のふれあいは古い。

私が物心ついた頃には、広滝水力や川上発電所は既に新鋭の威力を誇示していたし、戦後には唐津火力そして九州で初めての原子力発電所が玄海町に建設された。今では九州の有力な電源県として生産、生活源として電力供給の役を果たしていることは、佐賀出身の私にとって肩身が広いことである。

しかも玄海原子力が日本はおろか世界でも優等生として称賛されていることにおいておや、ということである。

また景勝の地唐津に、三本煙突の唐津発電所があり、石炭火力から始まって重油専焼となつたのだが、自然環境保持と電力の需給安定との調和に、いささかの狂いも出ないよう担当者の苦勞は大変なものである。

更に、たゞいま大容量の揚水発電所を天山に建設中だが、佐賀と電気の結びつきは佐賀県人としての私にとって終生断ち切れないものであるらしい。

広報委員より

この項は、「むつごろ」創刊記念に執筆していただきます。

「むつごろ」の随想第一号です。（広報委）

融和を図る団体として発足し、ことし、ちょうど三十年目を迎えました。

この三十年間には、会員の顔ぶれにも変化がありました。功成つて、二世や三世の若い年代にバトンタッチされたり、新しく転住の人たちを迎えました。

だが、県人会は、これからも結成当初の目的を見失わずに、福岡在住の佐賀ンもんが、老いても、若きも、温い思いやりをもつて相互交流を深めて親善を図る意義ある会にいたしてゆきたいと思っております。

この一環として、新しく県人会報「むつごろ」を定期発行（

年四回）をすることになり、創刊号をお届けいたします。

会報「むつごろ」は、県人会行事のご案内、会員家族や職場の動静、ふるさと佐賀のニュースをできるだけ豊富に盛り込んで、会員皆様の「心のつながり」を深めるものに役立ちたいと念願いたしております。

また、この会報の内容や表現も、全国に美味で知られる郷土の名産「むつごろ」のように、「ユーモラスで、味がある」ものにしたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

（昭和自動車社長、唐津市出身）

祝

ふる里と仲間を

——福岡市佐



サガテレビ社長 山崎 英顕

「むつごろ」発刊にあたって

佐賀県人会の皆様は、お元気で活躍のこととおよろこび申し上げます。

「佐賀」と「福岡」とは、歴

史的にも、地理的にも、また経済的にも、切っても切れない深い縁で結ばれており、その「かけはし」としての皆様のご活躍は郷土佐賀の発展のためにも、また福岡の発展のためにも役立っているのをご存じです。

佐賀に生まれ、育ち、また福岡にも永年勤務いたしました私にとりまして、佐賀ご出身の

皆様たちの福岡県内各界にわたるご活躍は、本当によろこばしいことと存じます。

果ては、私が勤務させていたたいておりますサガテレビも、皆様のところまでテレビの映像をお届けすることができないのは残念ですが、郷土佐賀の発展のため、郷土の皆様の日々の生活を明るく楽しいものにするためにも、社員一同努力いたしておりますので、ご支援のほどをお願い申し上げます。

中村建設株式会社

代表取締役会長 中村 常一 福岡市中央区笹丘1丁目32-9
代表取締役社長 山口 民雄 TEL (092) 771-6131(代表)

つなぐ<むつごろ>創刊

賀県人会機関紙——



佐賀県知事 香月 熊雄

「むつごろ」創刊のお祝い

福岡市佐賀県人会において、このたび機関誌「むつごろ」を創刊される運びとなりましたことは、誠に御同慶にたえません。百万都市福岡において御活躍

されている県人会の皆様が、忙中閑を割いて、このような県人会誌の発行を企画され、同志を通じて郷土や会員の動向等について情報を交換されることは、誠に意義深く、これを機会に会員相互の絆が一段と強まるものと確信いたします。

さて、郷土佐賀は、来年、置県百年の記念すべき年を迎えることとなりますが、これもひと

えに日本或いは世界の各地で「郷土佐賀」を暖かく見守っていただいている佐賀県人の皆様方の御支援と御協力の賜と存じております。

県といたしまして、置県百年を一つの節目として皆様方の御期待にこたえるべく、更に「明るく伸びる新郷土・佐賀」の建設に邁進する所存でありますので、一層の御支援を賜りたいと存じます。

終わりに当たり福岡市佐賀県人会の今後益々の御発展と会員各位の御健勝をお祈り申し上げます。創刊に当たつての御祝辞といたします。



佐賀県市長会長 瀬戸 尚

「むつごろ」発刊を祝って

福岡佐賀県人会の機関誌むつごろの誕生を心からお祝い申し上げます。会員の皆様には九州の経済教育文化の中心地福岡でふるさとを同じくする同士とし

て強い郷土愛と連帯感をもって、ともに励ましあいながら活躍されているその雄姿に敬意を表します。

今日の行政をとりまく環境は誠に厳しいものがありますが、皆様の故郷は全力をもって住みよく活気に充ちた町づくりを目指して頑張っております。

唐津市も本年市制施行五十周年の記念すべき年を迎えました

が、私は先輩諸氏が努力と苦勞知性豊かな愛郷心により築かれてきたこの尊い五十年の歴史の上にたつて、更に進展と発展の歴史を積み重ね絵に書きたくなるようなみずみずしい唐津の街づくりを目指しております。

また昭和五十八年三月には筑肥線電化が完成し皆様との距離を大きく短縮いたします。皆さん今日の厳しい環境の中にも、佐賀さんのもつねばりと根性で自分の使命にむかって一層のご健闘を期待して止みません。皆様の益々のご健勝とむつごろの発展を心から祈念いたします。



昭和自動車株式会社

本社 唐津市千代田町2565-5
TEL (09557) 4-1111
代表取締役社長 金子 宜嗣
福岡営業所 福岡市東区東浜1-8-8
TEL (092) 641-6381

佐賀弁の話もはずむ

盛況だった新春懇談会

「ひさしぶりやったナタ」。「なーい。おかげで元気やったバント」。恒例の福岡市佐賀県人会「昭和五十七年新春懇談会」が、さる一月三十日に博多区住吉一丁目四の料亭右近を会場に開かれた。永倉三郎名誉会長（九州電力社長）、金子宣嗣会長（昭和自動車社長）はじめ地元やふるさと佐賀から約

三百人が出席し、新役員の紹介、日本舞踊やノド自慢といった余興もにぎやかに繰りひろげて、旧友たちと懐かしい佐賀弁のよもやま話はずみずみであった。

この懇親会は、佐賀県人会にとって、会員相互の親善交流を深める新春の初顔あわせ行事です。



【写真説明】日本舞踊も披露され、盛況だった新春懇談会

りました。在福佐賀県人のシンボル格の水倉名誉会長は「佐賀県人会は、ことし発足三十年になりました。金子新会長の就任を機によりフレッシュに充実した活動を期待します。私も、老骨にむち打って、出来るだけの手助けを考えています」。定評ある温厚な口語にユーモアをまじえた祝辞に会場をわかせました。

ついで、溝上嘉幸代表理事兼事務局長（総合警備保障福岡支社長）が、六月開催の県人会定期総会に提案予定している組織・役員構成などの県人会規約の一部改正案を説明し、高田省三副会長（昭和商事石油専務取締役）がこれからの県人会運営の基本的なあり方を示し、それぞれ理解を求めました。

山下徳夫代議士（代理）は、佐賀県選出国會議員、佐賀県人、福岡市選出国會議員、佐賀県市会議員の方たちも出席し、それぞれ日ごろの議会活動の報告をまじえて県人会の発展を祝福しました。

このあと、祝宴にうつり、舞台上のおめでたい日本舞踊を眺めたり、名刺を交わしあい、楽しいひとときでした。

中西林一郎

福岡市博多区博多駅南1丁目2-15
電話 092-411-5331 番
出身地 佐賀市堀川町

- 日本事務機器流通団体連合会副会長
- 福岡事務機産業協会々長
- ダイアド株式会社社長
- 事務機ビル株式会社社長
- 東洋ビル管理株式会社社長
- (株)博多駅前システムセンター社長
- (株)事務機システムセンター社長

来賓あいさつの要旨

まず、佐賀県人会の皆様のご健勝とご発展を心からお祈りいたします。

ふるさと佐賀県でも、佐賀・唐津両駅について、武雄駅の高架事業も目途がつかしました。高速道路関係では武雄―佐世

ふるさと佐賀県出身の皆様方のご健勝とあわせて、佐賀県人会のより一層の発展を期待いたします。

ところで、佐賀県政界では、さきに重鎮であり、鹿島の殿さん」と県民に親まれていた鍋島

昭和五十四年十月、初めて衆議院議員に当選させていた。これから三年目になりました。

この間、毎週の週末、福岡空港に着き、唐津市まで車を走らせています。

きようは、佐賀県人会にお招きようは、佐賀県人会にお招

私は、母親が武雄市の生まれでございます。こうしたご縁によって、小学校時代は、太平洋戦争のために佐賀県に疎開しました。小城町の晴田小と岩松小、武雄市の武雄小の三校に通学しました。

保路線も計画策定されました。九州横断自動車道も、順次に

佐賀―福岡が近くなります

着工されています。佐賀までは昭和六十年初めには皆様方が

直紹先生（参院議員・元県知事）が亡くなられて、非常に残念

みんな元気ががんばってます

であります。

この後をうけて、私も佐賀

きをお願いして、皆様方のご挨拶の機会を賜りましたことを感謝

県人会の盛況に喜びいっぱい

謝いたします。

ところで、福岡市を通るご

この間、少年時代のいろいろの体験が、私の人格形成に大きく

私の母親も佐賀県の生まれ

く役立っています。

このようなわけで、佐賀県は

クルマですぐ帰ることが出来る距離になります。

参院議員 古賀 雷四郎

開通しますと、福岡―佐賀間は三十分もあると行けるように

福岡県選出）とは、佐賀県出身であり、同期のサクラ。でも

衆院議員 愛野 興一郎

あり、このたび衆院内閣委員会の同じ自民党理事を務めており

ることを願ひ、あわせて佐賀県も、負けないように発展をしながら

衆院議員 保利 耕輔

くはならない――と、痛感しています。

にご活躍されておる皆様方が、郷土発展のために尽力いただい

衆院議員 山崎 拓

ていることを感謝いたしております。

また、佐賀県出身で、各分野

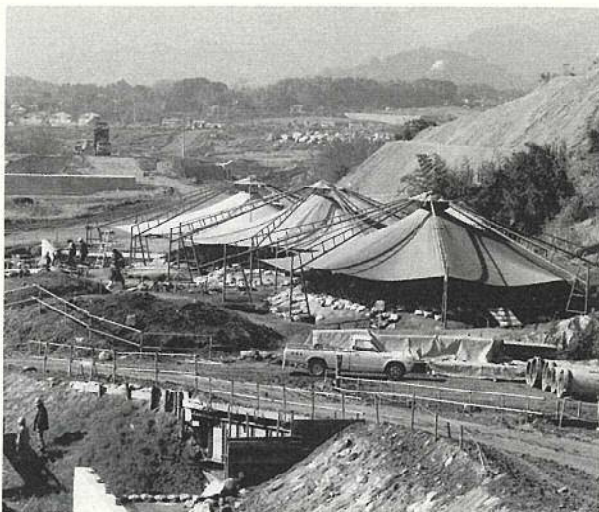
なると思います。

これからの、皆様が一日も早く高速道を利用して、ふるさと佐賀行きてきよう努力したい。（元建設省技監、鳥栖市出身）

ます。この自民党理事四人のうち、佐賀県人が半分を占めているわけであり、がんばっています。（祐徳自動車社長、鹿島市出身）

福岡在住の皆様たちの佐賀県人会が、このように盛大に開催されていることを心からお祝い申し上げます。（元フランス精工社長、唐津市出身）

この佐賀県人会は、長い歴史をもち発展してこられました。さらに金子新会長のもとで、より一層の充実をお祈りします。（福岡一区選出、武雄市出身）



【写真説明】 移設工事進む丸山古墳。
手前は横断道ルート

【佐賀市】 佐賀市久保泉町川久保にある「丸山遺跡」移転工事が始まりました。古墳ぐりみ合成樹脂を注入固定しての引っ越し作戦。こんな大がかりなのはわが国でも初めて。注目を集めています。

九州横断自動車道の計画線内にあり、事前調査をしたところ、縄文時代―古墳時代など数代にわたって重なった遺跡が発見され、考古学的にも価値が高いものとわかりました。

県教委は、道路建設主体の日本道路公団と話しあい、埋蔵文化財保護のために現地付近のルート変更を要請しましたが、無理なために、約一・四にある同市金立町の市立自然公園の一角へそっくり移設することになりました。

移転保存工法は、石積み崩れを防ぐため、土間にエポキシ樹脂を注入して補強。石室内には壁面に和紙を張りめぐらし、硬質ウレタンフォームを充てん。このあと全体を切り分け、ブロックにして運び、再組み立てします。

完工すると、説明板や環境整備をして社会教育の「教材」に役立てるそうですが、観光資源にも人気を呼びそうです。

固めて、そっくり移設

丸山古墳 わが国でも初めて

用地買収や建設進む 九州横断自動車道



【写真説明】 姿をみせてきた九州横断自動車道
ルート

【県東部】 佐賀県内でも本格的なハイウェイ時代の幕あけをつげる九州横断自動車道の建設工事が進んでいます。

この高速道の計画ルートは、長崎市―大分市間の二百四十八・真中の鳥栖ジャンクションで九州縦貫自動車道と連絡クロスし、全国各地のハイウェイ

につなげる交通大動脈です。佐賀県内の計画ルートは嬉野町―鳥栖市間の七十五・このうち四十八年九月、路線発表した武雄―鳥栖間三十一・のうち、佐賀―鳥栖間三十一・最も早く五十八年度の完成目標を描き用地買収や工事が進められています。

とくに中原・東背振・佐賀工区では、田園風景のなかにクッキリとハイウェイの姿も浮き彫りされてきました。

武雄―佐賀間二十三・は六十

佐賀県だより

佐賀―鳥栖間が開通すると、

佐賀―福岡両市間は、所要時間

がいまの半分ですみ、経済交流が活発になり、ふるさと訪問にも便利です。

国の四次空港整備計画

佐賀空港 県も関連予算



【写真説明】 佐賀空港の候補地

佐賀空港（仮称）建設計画が、国の第四次空港整備計画（六十年まで五年間）に採択され、県でも五十七年度予算に空港関係分千五百五十万円を計上し、実現を目指しています。

候補地は、佐賀平野南部の有明海沿岸にある佐賀郡小町町国造千拓地。滑走路は二千五百級一本。年間利用客千六百六十万人を見込むものです。

同空港建設構想が登場したの

会員の募集

福岡市 佐賀県

人會では、佐賀県出身者や縁故者と家族に、「一人でも多く県人会に加入しましょう」と呼びかけています。

県人会は、戦後、二十六年五月に発足。ことし三十周年を迎えてリフレッシュ。「県人同志の温い思いやり、生きる希望と自信がわく県人会への充実」を目指すものです。

身の回りのひとたち、友人や知人たちに、ぜひ、県人会

への仲間入りを呼びかけましょう。一人ひとりの輪のひろがり、県人会のより一層の充実や活性化への基盤です。

新規加入の方は、年会費三千円（維持会員）を添えて、千八〇福岡市中央区天神四丁目一六、昭和セントラルビル六F、福岡市佐賀県人会事務局あてにお送りください。郵便振替ご利用の場合は、福岡4244 福岡市佐賀県人会口座です。

支部だより―地域・職域・同窓会各支部やグループの団体・メンバーの動向、行事案内などです。

提案―県人会や会報についてのご意見やアイデア。随想やレポート―一行十四字×四十行くらい。連絡事項、連絡先の電話番号を記入し、県人会事務局あてにお送りください。投稿量によって、掲載がズレることがあります。

原稿の募集

会報「むつごろ」に会員の方たちのご投稿をおよせください。

各支部の活動状況、会員の動向を細かくリポートし、相互の仲間意識の向上を図るのが目的です。

投稿の分類はつぎの通りです。

会員動向―加入退会、住所や電話番号の変更（勤務先、経営する企業も含みます）。

写真、佐賀新聞社の提供によるものです。

お知らせ

写真、佐賀新聞社の提供によるものです。

昭和56年度会計報告

自 昭和56年4月1日
至 昭和57年3月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年度繰越金	738,940 ^円	文 具 費	46,040 ^円
56年度維持会費(役員・相談役)	0	会 計 手 当	50,000
" (一般会員)	0	通 信 印 刷 費	197,570
56年度総会特別会費(185名)	585,000	会 議 費	12,350
57年新春役員特別会費(91名)	1,300,000	事 務 所 家 賃	80,000
預 金 利 息	13,128	56年度総会費用	569,799
		57年新春懇親会費	1,255,000
合 計 (A)	2,637,068	合 計 (B)	2,210,759
(A) - (B) 差引剰余金	426,309		

(繰越金内訳) 普通預金 399,261円
郵便貯金 18,000円
現 金 9,048円

昭和57年度収支予算(案)

自 昭和57年4月1日
至 昭和58年3月31日

収 入		支 出	
項 目	金 額	項 目	金 額
前年繰越金	426,309 ^円	通 信 印 刷 費	300,000 ^円
維持会費(役員)	250,000	会 議 費	100,000
" (相談役)	450,000	研 修 会 費	200,000
" (維持会員)	900,000	機 関 誌 発 行 費	1,000,000
協 賛 告 告 料	400,000	年次総会補助費	600,000
預 金 利 息	20,000	予 備 費	246,309
合 計	2,446,309	合 計	2,446,309

昭和五十七年度佐賀県人会定期総会は、きたる六月十二日午後二時から福岡市中央区薬院二丁目、はかた会館で開きます。総会では、金子会長あいさつ、新役員紹介、来賓祝辞のほかに、

県人会規約一部改正案などの提案審議が予定されています。この規約改正案は、県人会活動や財政基盤の充実強化が目的です。

会員の相互交流や仲間意識の向上を目指して、新しく会報「むつごろ」の年四回定期発行を行います。このあと和やかに懇親会をいたします。事務局では「福岡市

主な議題
◇県人会規約の一部改正
◇五十六年度活動と決算報告
◇五十七年度活動計画と予算
◇会報「むつごろ」発行(年間四回)
◇このほか

6月12日午後2時 はかた会館

57年度県人会定期総会を開く

総合警備保障株式会社

取締役会長 村 井 順
福岡支社長 溝 上 嘉 幸

本社/東京都港区元赤坂1-6-6安全ビル
T E L (03) 470-6811 (代表)
支社/福岡市博多区博多駅前3-21-4
T E L (092) 471-8061 (代表)

佐賀県人会の三〇年史

①

思い出深い大濠公園の運動会

昭和二十六年 発会式と戦没者慰霊祭

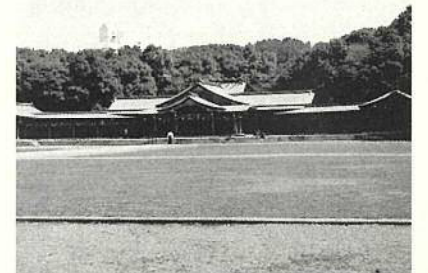
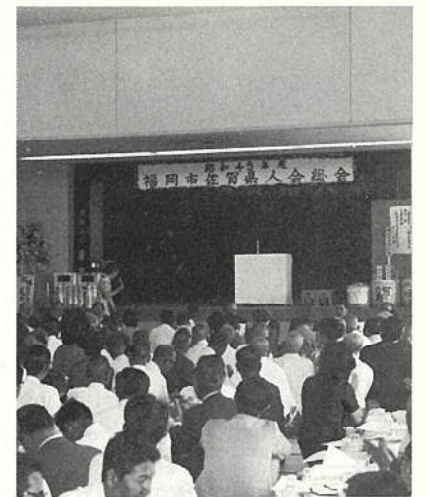
福岡市佐賀県人会の発足は昭和二十六年五月——初代会長の中島徳松翁(元筑豊炭鉱主)はじめ三十数人が出席し、恵比須会館(博多区東公園)で発会式をあげた。

ついで翌二十七年春、鍋島直紹佐賀県知事夫妻を迎えて護国神社(中央区六本松一丁目)で行った県出身戦没者慰霊祭を兼ねた県人会総会には、数百人参加し盛大だった。

このころわが国は、敗戦直後であり、「悪性インフレ」「食糧危機」の猛威をうけ、千万人餓死もするほどだった。一般市民は生活防衛手段として「タケノコ生活」を余儀なくされ、配給不足を「買い出し」によって補い、大部分の国民は食べていくことだけで精いっぱいの時代だった。

なごやかに盛大なつどい
県人会では、再び二十八年春、寺崎英雄二代会長(元炭鉱会長)はじめ多数出席し、護国神社において戦没者慰霊祭を兼ねた定期総会を開いた。このあと現在まで三十年間続いている。

見を聞く会が発端だったが、現在ではだれでも参加できる集い。県人会総会の参加人員は二百五十人、五百人ぐらいい。老若男女の同県人が職業や肩書きの違いにこだわらず、佐賀弁まるだして、相好をくずし談笑する姿は、県人会ならではのほほえましい光景である。



【写真説明】(上)満員の盛況だった昭和49年度県人会総会
(下)第2回総会を開いた護国神社

佐賀県航空写真集

7月1日発売
予約受付中
・高度1,000m佐賀の顔

ふるさと福岡

《県制施行百周年記念》

●お問い合わせ先/佐賀新聞社 ☎(0952)22-1411・佐賀新聞福岡支社 ☎(092)751-2648・751-2697

記念特価 11,000円
定 価 12,000円
※6月末日まで記念特価
予約受付中!
B4版・264頁・オールカラー
制作 佐賀新聞社
発行

福岡市佐賀県人会規約（改正案）

【第一章 総則】

◆第一条 本会は佐賀県人会と称する。

◆第二条 本会は福岡市並びに近郊在住佐賀県人並びに縁故者をもって組織する。

◆第三条 本会は福岡市に事務所を置き必要により各区支部・職域支部・学校別支部を置く。

【第二章 目的および事業】

◆第四条 本会は佐賀県人関係者の相互連絡、親睦、繁栄を図るをもって目的とする。

◆第五条 前条目的達成のために必要なる事項。

【第三章 会員】

◆第六条 本会会員を左の二種に分かつ。維持会員Ⅱ所定の会費を納入氏名を登録する者Ⅲ会員Ⅳ福岡市並びに近郊在住県人並びに縁故者。

【第四章 役員並びに職務権限】

◆第七条 本会は左の役員を置き権限を左のごとく定む。名誉会長（二名）▽会長（一名）▽副会長（若干）▽代表理事（一名）▽常任理事（若干）▽理事（若干）▽監事（二名）

◆第八条 名誉会長、会長、副会長は総会で推挙する。代表理事

事は会長の指名。理事は会長指名し、常任理事は理事の互選とする。監事は役員会の議決を経て会長委嘱する。

◆第九条 会長はこの会を統理す。副会長は会長を補佐し、会長事故あるときは会長指名の副会長がこれを代理する。副会長とともに事故あるときは代表理事がその職務を行う。代表理事は会長の指示を受け事務を総理する。常任理事は代表理事を扶けて事務を執る。理事は重要事項を審議し会長の命により執行する。監事は民法第五十九条の職務を行う。

◆第十条 役員の任期は二年とし再任を妨げない。補欠により就任したる役員の任期は前任者の残任期間とする。

◆第十一条 役員の任期満了の場合といえども後任者が就任するまでは前任者がその職務を行うものとする。

◆第十二条 本会に顧問および相談役若干名を置き会長が委嘱する。顧問および相談役は重要な事項について会長の諮問に応える。

【第五章 会議】

◆第十三条 会議は総会、役員

会、理事会の三種とし、会長必要により招集して会長議長となる。ただし、簡易なる事項または緊急を要する事項については書面により賛否を求める会議に代えることが出来る。

総会Ⅱ年一回開催、正会員出席して本会の重要事項並びに予算、決算の審議をなす▽役員会Ⅱ顧問、相談役を含めた全役員出席して総会に準じて本会の重要事項の審議をなす▽理事会Ⅱ本会事務執行についての連絡並びに協議をなす。

【第六章 庶務および会計】

◆第十四条 本会事務所に左のごとき簿冊を備える。

会議録、会員名簿、役員名簿、支部役員名簿、金銭出納簿、領収書綴、往復文書綴。

◆第十五条 本会の経費は会費並びに寄付金をもって充つ。会費は別に定む。

【第七章 雑則】 別に定む。

◆維持会費（年会費） 名誉会長、会長Ⅱ三万円▽副会長Ⅱ二万円▽代表理事、相談役Ⅱ一万円▽常任理事、理事Ⅱ五千円▽監事Ⅱ五千円▽維持会員Ⅱ三千円（六月十二日現在）

福岡市佐賀県人会役員名簿

役 職	氏 名	役 職	氏 名	役 職	氏 名
名誉会長	永倉 郎	理 事	寺 井 雄	市 役 所	牛 島 文
会 長	金 子 三	"	大 井 辰	九 州 電 力	松 限 朗
副 会 長	中 村 常	"	内 山 初	一 般 企 業	井 上 健
"	中 西 林	"	田 中 一	"	中 原 一
"	吉 田 正	"	榊 原 秀	(地区別支部長)	
代表理事	高 田 三	監 事	藤 井 秀	高 宮 子	原 垣 九
理 事	溝 上 幸	" 局	上 川 正	簀 子 新	稻 藤 豊
"	山 副 次	事 務 局	古 賀 利	西 子 新	佐 藤 寿
"	無 津 照	"	内 田 喜	小 長 浜	江 吉 武
"	高 坂 美	(職域支部長)	辻 波 弘	姪 ノ 浜	古 賀 日
"	中 原 丈	県 庁	原 田 邦	花 堅 花	太 田 勇
"					